

アンビシャスの継承： 西村秀夫と”札幌いちご会”と小山内美智子

経堂聖書会 2017.1.29 山口和彦

矢内原忠雄に学んだ西村秀夫の晩年について紹介いたします（以下敬称略）。西村秀夫（1918 生）は学生であった 1940 年 4 月、矢内原忠雄（1937 年、東京帝大辞任）の日曜家庭集會に参加しましたが、翌 41 年には繰上げ卒業、徴兵で満州へ送られました。そうした学生たちに向けられた矢内原の言葉、「卒業生を送る」（1941）は西村の生涯の指針となりました。

「君たちを今の時勢に於いて世に送るは、特別小羊を狼の中に入れるやうなものだ。併し心配することはない。君たちが信仰に立つ限り、神は君たちの盾となり、力となつて下さる。（中略）神を愛せよ。隣人を愛せよ。少しでも周囲の人々を助けよ。殊に弱き者を助けよ。君たちの生涯をして、弱き者には喜ばれ、傲る者には憎まれるものたらしめよ。（中略）さらば往け、元気で、主の平安の中に」。

キリスト者と知られた西村は、中国では現地住民の民生を担当し、若者に勝手に日本語と化学を教えていました。終戦時、集団自決から逃れ、中国人の村にかくまわれ、臨月だった董子夫人は村で長男を出産しました。帰国後、矢内原の招きで東大教養学部学生部専任教官となりました。東大紛争時は対立する学生間の暴力を体を張って阻止し、紛争後は公害被害者、障がい者等に目を向ける活動を始めていましたが、次男の死に深く苦しみ、しばらく入院し、復帰後は「おのれに恃むことが罪だ」と繰り返し述べていました。1975 年、東大を退職し、北海道の福祉施設に転職、小山内美智子と出会いました。

小山内は脳性小児マヒで両手が不自由で、幼い頃から木の枝を足に挟み、地面に絵を描いたりしていましたが、母親は「手を使いなさい」と足の指の使用を禁じ、書けないのでテストも受けられないため、知能指数 60 と判定されました。養護学校中等部からは、父が買ってくれたカナ タイプライターを使い、文章を書くのが好きになりました。

1970 年代、北海道庁は重度障がい者の施設「福祉村」をつくるため、親の会と協議していましたが、親は泣いて訴えていましたが、障がい者は発言しません。集會後、西村は小山内に「みんないつもあなの？それでいいの？」と声をかけました。この時、小山内は黙っていましたが、ある時、「親がかりの福祉は捨てなければいけない。自分の言葉で生きようじゃないか」という文に目覚めて、1977 年、「札幌いちご会」という障がい者団体を立上げました。1 月 15 日に初めて話しあいをしたので「いちご会」と西村は名付けました。障がいも重くても、プライバシーの持てる部屋が欲しい！障がいの程度によって差別しないでほしい等の要望が出され、どうしたら普通の人間として暮らしていけるのか考えていたとき、障がいのある者となない者とが共に暮らせるアパートがスウェーデンにあると知り、1979 年、小山内たちはスウェーデンに行きました。この旅は小山内たちを大きく変えました。人間として、障がい者運動をしてゆく者としても、女としても。そして自立運動のために社会福祉法人を作ろうと、募金や講演料で 1 億円を準備し、市に働きかけ、2000 年 4 月に開所しました。デイサービス、授産事業、福祉ホーム、ヘルパー派遣等の事業をしています。2005 年の西村のお別れの会の弔辞で小山内は述べています。『「施設名はなんと名付けようか？」と悩みながら開所パーティーを開いた時、西村先生が来て下さり、「ここはアンビシャスではどうですか？」とおっしゃった。そしてアンビシャスと名付けられた施設は、今はたくさん障がい者が来て笑ったり泣いたり怒ったりして人生を謳歌しています。先生と出会わなければ私たちは山奥の施設に置き去りにされ、何でも分かっている、何もわからないふりをして生かされているだけの人間になっていたと思います。人との出会いは運命を変え、歴史も変えるのです。先生、寂しいけ

れど安らかに眠りください。きっと先生にお会いできる生き方をします。小山内美智子』

生活保護を受けながらも地域の中で自立生活を送り、それが施設内の生活より良いことであることを証明しようとしている障がい者たちが北海道にもいる。小山内美智子さんを中心とする「札幌いちご会」である。決してスーパーウーマンではない。彼女にそれができているのは、どん底で生きてきた人に共通している底抜けの明るさと強靱な生命力、そして彼女の考えに共感して集まってきたボランティアたちの協力があるからだ。「楽しい」と彼らは言う。“自立”は“孤立”ではない。障害を乗り越えて共に生きる関係にこそ、“真の自立”はあるのだ。 西村秀夫

最晩年の西村の愛唱聖句を記します。

わが兄弟なるこれらのいと小さき者の一人になしたるは、即ち我に為したるなり。マタイ 25.40

(本文 1991 字)

参考

1. 西村秀夫「わが師の言葉を抱きて」2004.11.28 放送 NHK 心の時代

参考サイト：<http://h-kishi.sakura.ne.jp/kokoro-116.htm>

2. 小山内美智子「人生の贈りもの」(2013.7. 8-12 朝日新聞)

3. 小山内美智子 HSK いちご通信 150 号 (2005)

4. 小山内美智子“車椅子からウィンク” ネスコ-文藝春秋